

## 戦後日本の成長と国際関係

栃木県佐野市立北中学校 尾崎則子

### はじめに（新指導要領との関連）

本単元は、日本の敗戦・独立から高度経済成長、そして現在の国際関係にいたるまでの部分である（平成20年度版帝国書院の歴史教科書では、第7章「現代の日本と世界」の中の第1節「戦後日本の成長と国際関係」にあたる部分である）。戦争によって多くの犠牲を払った日本が、連合国軍の占領下で、新たに生まれ変わるための基礎をつくりあげていった時期であり、現代の日本社会の抱える諸課題を考えるうえでも非常に重要な部分でもある。しかし、歴史学習の最終章であるために、ややもすると時間不足に陥り、今までは十分な取り組みができていない傾向もあった単元でもある。

今回の学習指導要領改訂において、現行の歴史の内容の(5)「近現代の日本と世界」という単一の大項目が、(5)「近代の日本と世界」と(6)「現代の日本と世界」という二つの大項目として構成し直され、現代社会への理解が一層深められるように改訂されている。指導時間も歴史に130時間の授業時間が配当され、改訂後はこの単元は3学年の履修となる予定である。

また公民的分野の改訂では、現行の指導要領の内容(1)「現代日本の歩みと私たちの生活」が、新学習指導要領では「私たちと現代

社会」という表題に改訂され、高度経済成長など現代日本の歩みに関する記述が削除されている。これは戦後の日本社会の変化については歴史学習において重点的に行うという方向が示されたものと考えられる。

そこで、本単元の学習展開を考えるにあたっては今回の改訂の趣旨を生かし、公民学習とのつながりをもった展開を考えてみたい。

### 2 単元の流れ

単元の展開としては、最初に、教科書の流れに従って戦後の日本の変化と国際関係について基本的な理解を深めたい。5～6時間扱いとして、教科書の資料を十分に活用して基本的な理解を深めさせたい。そして最後に学習のまとめとして、祖父母へのインタビューにより、自分の家の戦後史をレポートする活動を取り入れたい。身近な人の体験談を聞くことによって歴史が単なる教科書の中の物語ではなく、自分たちの生活と深く関わりのあるものであることや、よりよい社会を築くために大切な学習であることに気づかせたい。

以下に各時間のポイントを紹介する。

#### (1) 新時代に求められた憲法

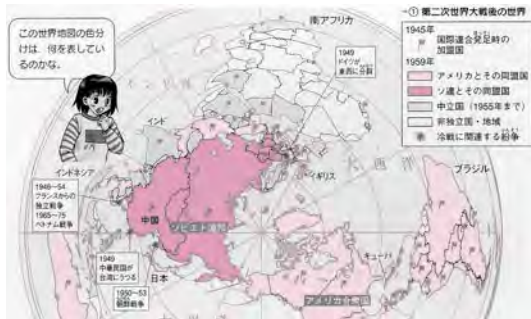
次の写真は当時の国民に大きな衝撃を与えた1枚である。この写真によって日本が連合国軍によって占領され、その後の諸改革が連合国軍によって指導されたことを印象づける



「中学生の歴史 初訂版」p.220①昭和天皇とマッカーサー

ものである。同時に、占領期におけるマッカーサーと天皇そして日本国民との関係を象徴する写真でもある。この写真を導入にして戦後の諸改革についてまとめさせたい。また戦後の焼け野原の中の教室でも子どもたちが笑顔で学習している姿の写真等をもとに、当時の人々の苦労や気持ちにもふれさせたい。

(2) 冷たい戦争と国際連合



「中学生の歴史 初訂版」p.222①



「中学生の歴史 初訂版」p.223⑤

は日本との関係も含め理解を深めたい。



「中学生の歴史 初訂版」p.224①

(3) 日本の独立と安全保障

東西対立の中での独立は、様々な困難を伴うものであったが、当時の吉田首相が平和会議でのスピーチをあえて日本語で行ったエピソードなども紹介しながら、独立が日本人としてのプライドを取り戻し、日本の新たなスタートとして重要な出来事であったことを理解させたい。

(4) 高度経済成長とよばれる発展



「中学生の歴史 初訂版」p.226①②

電化製品に見とれる家族の写真を導入に使って家庭電化製品の普及の様子を把握させる。さらには家電の普及が各家庭にどのような変化をもたらしたのかを考えさせたい。この時間の資料は、学習後に「我が家の戦後史」を作成させる際の参考資料となる。

(5) 国際関係の変化と日本

アジアを中心とする複雑な国際関係の変化を理解させるには1時間ではむずかしい。できれば2～3時間かけ、年表に整理し理解させたい。とくに沖縄の問題は現代の日本の防衛問題にも関わる問題であることを理解させる。



## 我が家の戦後史を作成しての生徒の感想

○祖父母の話聞いて電気機器が使われる前はとても大変だったということがわかりました。自分が生まれたときはすべてあったので、電気機器の便利さに気がつかなかったけど、こうやってあらためて話を聞くことによって、電気機器の便利さや家の歴史を知ることができてよかったです。

○昔の生活は大変だったんだとあらためて思いました。今の生活を当たり前と思てはいけないと感じました。話の中で一番印象に残っているのは、食事のことで一つのおかずを4人で分け合って食べていたということにビックリしました。

○祖父母が小学生の頃は5、6年生は授業の一環として田んぼの仕事をしたり、畑の草むしりなど農家の手伝いをしたそうです。電気製品が普及すると生活が楽で楽しくなったそうです。

○1964年の頃から電気製品が普及してきた。この頃からきっと温暖化の問題も進んできたと思いました。パソコンやゲームがなくても遊べる場所がたくさんあったこともわかりました。今は外で遊ぶことが少なくなってきているので、昔の方がいろんな遊びがあって楽しそうだなと思いました。

○祖父母の話聞いて私が想像していた以上に大変な生活をしていたことがわかって驚きました。また、今の自分の生活がどれだけ豊かで恵まれているかもわかりました。祖父に「今の時代に子ども時代を過ごしていることがうらやましい。」と言われ、もっと自分の今の暮らしに感謝していきたいと思いました。

○戦争を体験し、食料も満足にない時代からどんどん豊かになり、物が増えていく時代を

実際に体験したじいちゃんたちはすごいなあと思った。きっとじいちゃんたちが生きてきた人生は日本の歴史の中でも、とても重要な時代だったと思う。私は二人をととても尊敬しているので、これからもいろんな話を聞きたいと思った。

○今まで祖父に戦争の話聞いたことはなかったので、戦争の時代に祖父が生きていたなんて知りませんでした。祖父は笑いながら話していましたが、話を聞いているうちに悲しくなっていました。とくに「コッペンが出るのが楽しみだった。」という言葉聞いたときには泣きそうになりました。今はいろんな種類の給食が出るしおかわりも自由です。ときにはたくさん食べ残してしまいます。これって贅沢なことなんだと改めて実感しました。生まれたときからテレビもクーラーも洗濯機も掃除機も何でもそろっていたので、不自由な思いもしたことがないのに、お小遣いのことや他のことで不満を言っている自分が情けなくなりました。

## おわりに

この単元は、現代の日本社会を理解するうえで非常に重要な部分であると同時に、現代の日本社会が抱える問題の原点を考えるうえでも重要な部分でもある。また、幸いにもその時代を生き抜いた人々が生徒たちの身近にいて、その証言を直接学習に生かせる単元でもある。今回の実践では、我が家の戦後史の作成のために祖父母の話聞いた生徒たちが自分の生き方を問い直していることが何より嬉しかった。